NIE実践報告

1．タイトル：☆みんなで しんぶんをよもう

2．学校名

大阪教育大学附属天王寺小学校(大阪府)

3．実践者名（代表者名）

鈴木　武司

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　40人

6．単元（本時の学習課題）名

カタカナのひみつをかんがえよう

7．目標（狙い）

新聞にかたかなで表記されている言葉を探しその言葉を抜き出させることで、新聞を読むことに慣れさせ、どのような言葉がかたかなで表記されているのか、実感できるようにする。

8．評価の視点

新聞に書かれているかたかなの言葉をたくさん抜き出しているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「ことばのいずみ」(教科書教材:学校図書)　2時間
「カタカナのひみつをかんがえよう」　3時間　　合計5時間+朝の学習・家庭学習

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)新聞を広げ知っている言葉を探し、かたかなの言葉がたくさんあることに気付く。(1時間)
(2)かたかなの言葉をできるだけたくさん抜き出す。(1時間)
(3)保護者に協力してもらい、家庭でも一緒に新聞を読み、かたかなの言葉を探す。
(4)教科書教材「ことばのいずみ」で、かたかなを表記する決まりを学ぶ。(2時間)
(5)これまで抜き出したかたかなの言葉を、外国に関係する言葉と音を表す言葉に分け、教科書で学習したことを実感し、それ以外の言葉もあることを知る。(1時間)

(留意点)
・一年生なので、保護者の理解を得ながら、家庭学習として位置づけると効果的。
・言葉に重なりがなくてすむように、抜き出したかたかなを書く表を50音で分けておく。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

一年生の実践ということもあり、活動は限られてくるが、抜き出すという簡単な活動にすることで、児童は興味を持ち、友達同士抜き出した言葉の数を競い合いながら、楽しく新聞を読むことができた。

12．成果と課題

保護者にも協力してもらったので、家庭で一緒に新聞を読みながら知らない言葉に出合ったら教えてもらえたので、児童の語彙が増すことにつながる。
どの言葉が外国の言葉なのか、判断に困ることがある。一年生は自分で調べることが難しいので、どちらか曖昧になっている言葉もある。逆に、それがこれからの言葉に対する興味付けとも考えられる。